

## 平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年5月8日

代表者 星野 祐子

研究課題名	デジタル新聞を活用した系統的学習プログラムの開発 —学生の表出活動をデータにして—
研究期間	平成28年6月～平成31年2月（予定）
共同研究者	松永 修一・石野 榮一
1. 今年度の研究概要	
<p>義務教育段階においてNIE（Newspaper in Education）は積極的に導入されている。しかし、新聞を読む習慣がある学生は少なく、時事に関心を持たない学生も多い。そこで、新聞を読み解くことへの興味・関心を促しつつ、日本語運用能力の伸長を図るべく、デジタル新聞（朝日新聞デジタル）を用いた学習を実施した。以下が平成28年度の研究概要である。</p> <p><b>■実施の詳細</b>  対象科目：文芸文化学科1年次後期必修科目「日本語表現Ⅰ」（受講者55名）  実施体制：3クラス体制で実施  授業内容：テキスト『日本語を書くトレーニング』を併用しながら、「朝日新聞デジタル」を活用した学習を行った。作文は採点后に返却、一部の課題は推敲を課した。</p> <p><b>■朝日新聞デジタルを活用した学習について</b>  （1）新聞記事を要約し、自分の意見をもつ  → 各自が興味・関心をもった新聞を検索し、記事内容を要約する  （2）わかりやすい文章の工夫を知る  → ニュースの構成を捉える／社説の構成を捉える  （3）新聞記事を検索・引用をし、自説の根拠とする  → テーマ例：空気を読むことは必要か／紙の新聞は必要か必要でないか  （4）時事に関心を持つ（社説やコラムの記事から社会の動きを知り、自分の意見を持つ）  → 「じわる天声人語を」（2016年9月24日 朝刊）  「私の1年 1字で総決算」（2016年12月13日 夕刊）</p> <p>※上記の活動を行いつつ、アカデミックライティングの技法（一文一義、主述の呼応、読点の打ち方、語句の選択、要約の方法、引用の方法、文章展開の方法等）を指導した。</p> <p><b>■分析にあたって</b>  学生が書いた作文をデータ化し、語彙レベル、文レベル、文章レベルで、表現の正否や表現力の伸長について、その傾向を調査した。</p>	

## 2. 研究の成果

### ■デジタル新聞活用の具体的成果

- ・新聞を読むことへの興味・関心を促すことができた。
- ・情報検索ならびに情報活用スキルの伸長を促すことができた。
- ・新聞の構成（見出し・リード・本文）を、日本語学の立場から検討することができた。
- ・様々なタイプの文章（社会面、政治面、オピニオン記事・コラム記事）を比較・検討し、それぞれの記事の文章特徴について、理解を促すことができた。

### ■学生の作文スキルについて

- ・「概略→詳細」「一文一義」のスキルは、新聞を活用しながら効果的に身につけることができた。
- ・語彙力の不足から文末が単調になりがちである（例：「思う」の多用）。
- ・具体的な記述を伴わない主観的な表現が多くみられ、情報の正確さや客観性に欠ける。
- ・接続表現のバリエーションが少ないことから、文章構造が平面になりがちである。
- ・引用スキルが十分でないため、新聞記事からの引用を試みるものの、主述の呼応が不一致で、一文の中にうまく組み込むことができない。

### ■今後の課題

- ・今回の研究においては、学生の引用スキルが十分でないことが明らかになった。引用文の活用（適切に引用を行う、持論の根拠にする、持論の仮想敵にするなど）について、その指導法を考えたい。

## 3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

本研究の成果の一部は、以下の著作において既に公表されている。

伊中悦子、高崎みどり、中里理子、星野祐子編（2017.3）

『学生のための言語表現法』暁印書館

執筆箇所

第2章「ノートのととり方」

第3章「ゼミナールの受け方の基本」

第5章「会議の持ち方」

また、関連する学会で、本研究の成果について発表を予定している。

## 平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	プロジェクト研究
研究課題名	デジタル新聞を活用した系統的学習プログラムの開発 —学生の表出活動をデータにして—
研究代表者	星野 祐子
研究期間	平成 28 年 6 月 1 日 ~ 平成 31 年 2 月 28 日
共同研究者	松永修一・石野榮一

## 1. 研究成果取組状況

## (1) 国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済		
発表予定		

## (2) 雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済		
投稿中 投稿予定		

## (3) 図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	伊中悦子高崎みどり・中里理子・星野祐子編(2017) 『学生のための言語表現法』暁印書館
出版予定	

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名